

令和 6 年 5 月 13 日現在

機関番号：22604

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2023

課題番号：18K02033

研究課題名(和文) エスニック・マイノリティの連携を通じた大都市低所得地域での社会課題解決の実践

研究課題名(英文) Practical solutions to social issues through ethnic minority collaboration in a low-income neighbourhood of a metropolitan city

研究代表者

山本 薫子 (Yamamoto, Kahoruko)

東京都立大学・都市環境科学研究科・准教授

研究者番号：70335777

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円

研究成果の概要(和文)：DTESおよび周辺での日系、中国系、先住民、黒人グループの諸活動やネットワーク形成、地域活動団体との連携ではジェントリフィケーション反対運動、住宅不足問題への改善要求運動を軸として横断的な協関係が構築された。一方で、反対運動の持続には一定の資源が必要だが、対象地域では小規模団体が中心であり全体を包括的に取りまとめる組織が存在しないことが課題となっている。また、低所得地域が縮小することによって土地への権利をめぐるエスニックマイノリティ間の対立も生じている。コロナ禍では緊急時には立場を超えた協力が見られたが、その後、事態が収束し助成金が縮小する中で、限られた機会を競い合う関係も生じている。

研究成果の学術的意義や社会的意義

異なるルーツ、文化、宗教等を持つ住民たちの共生は、現代の都市社会の主たる課題の一つである。本課題では、カナダを事例に、エスニック・マイノリティや移民の割合が高い都市低所得地域での異なるエスニック集団の関係性を連携という視点から捉え、人権問題等に関わるより大きな課題解決、都市における共生社会の実現につながるための促進要因とそれに関わる構造について分析した。また、本課題では、ジェントリフィケーションや住宅価格高騰、住宅不足など広く地域全体にかかわる社会課題の解決のための連携が積極的に進められている事例を取り上げ、その促進要因や背景について実態を把握し、分析を行った。

研究成果の概要(英文)：Cross-cutting cooperation was established around activities and networking of Japanese, Chinese, indigenous, and black groups in and around DTES, as well as with local community groups in opposition to gentrification and demanding improvements to housing shortage issues. An opposition movement requires a certain level of resources to sustain itself, but the challenge is that most of the groups are small and there is no body that comprehensively organizes the entire movement. The low-income area has been relatively shrinking due to gentrification and it led to conflicts among ethnic minorities over rights to land. During the COVID, especially emergency phase, there was cooperation across positions, but later, as the situation was resolved and grants were scaled back, relationships also emerged that competed for limited opportunities.

研究分野：都市社会学

キーワード：大都市低所得地域 エスニック・マイノリティ 連携 バンクーパー ジェントリフィケーション 日系カナダ人 中国系カナダ人 地域活動

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

報告者は2012年以降、カナダの最貧地区として知られるバンクーバーのDTES（Downtown Eastside）地区及び周辺地域（中華街等）で定期的に社会調査を実施し、地域構造変化、福祉施策、地域活動を中心に研究を行ってきた。SRO（簡易宿泊所）が多く立地するDTESは身体・精神的な障がい、疾病や薬物・アルコールの依存を抱える住民が多く、極めて福祉ニーズの高い地域である。

一方、近年の北米大都市での全体的な地価・家賃高騰を受け、DTES地区では低所得層対象のSROが取り壊されたり、改修（リノベーション）されて新たに中流層向けの住宅が建てられる事例が増加している。一部のSROは老朽化にも関わらず、メンテナンスが全くなされず、先進国都市とは思えない劣悪な生活環境である。家主に抗議した住民に対する追い出しやいじめも起きている。住民に占める先住民、女性、障がい者、移民等の比率も高いことから、国連「公民権・政治的権利委員会」でもカナダの人権問題として報告された。

欧米諸都市で生じている再都市化、都市産業構造の変化と同様に、バンクーバーにおいても産業構造の変化、とりわけITや創造産業、観光や教育産業への投資増が見られる。それに伴い、DTES地区に近接してIT企業、映像制作学校、美術学校、外国人留学生向けの語学学校が増加し、外食産業、商業施設も進出している。近年では、低家賃住宅が減少し、低所得層がさらに劣悪な居住環境、路上生活（ホームレス）へと押し出される問題も生じている。とりわけ賃貸住宅居住者、低所得層が経済的、生活環境面での圧迫を受けていた。

こうした状況に対し、住民の生活支援や権利獲得を求めてきた地域団体は、住民ニーズに寄り添った活動を活発に展開してきたが、そこでは複数エスニック集団の連携が核となってきた。特に30歳代、40歳代の若い日系、中国系カナダ人は、親世代とは異なり、自らのルーツや排斥の歴史（日系人強制収容など）を軸としたまちづくり、地域活性、多世代交流の取り組みを自らのエスニック集団の中で行なうと同時に、先住民や女性のグループ、人権団体、ホームレス支援等のNPOとの団体間の連携にも積極的である。そこでは、現在の低所得層に対する排斥（ジェントリフィケーション）を過去の排斥（差別や日系人強制収容など）と重ね合わせることで、被害経験を共有するだけでなく、人権侵害の指摘、居住環境改善の主張を通じて、多文化に基づく地域共生が目指されていた。この背景には、カナダにおける1990年代以降の新移民増加や多文化主義の定着等があった。

2. 研究の目的

異なるルーツ、文化、宗教等を持つ住民たちの共生は、現代の都市社会の主たる課題の一つである。エスニック・マイノリティや移民の割合が高い都市低所得地域での異なるエスニック集団の関係性を「連携」という視点から捉え、人権問題等に関わるより大きな課題解決、都市における共生社会の実現につながるための促進要因とそれに関わる構造を明らかにすることを本研究は目指した。

都市の低所得地区に移民などエスニック・マイノリティが集住する現象はこれまでに指摘されているが、異なるエスニック集団の関係性に着目した際、協調や連携よりは、住み分けや対立、資源をめぐる競争が指摘されることが多かった。それに対して、DTESや隣接する中華街では課題解決のための連携が積極的に進められている。その促進要因や背景を明らかにするために、本課題では、エスニック・マイノリティや移民の割合が高い都市低所得地域における集団行動、とりわけ社会運動において異なるエスニック集団が過去の経験や記憶（特に排斥等）、ルーツを軸に連携していくプロセスや相互作用、その構造を明らかにし、人権や住民の権利擁護の論理がいかに構成、再構成され、都市での地域社会づくりに反映されているか分析することを目的とした。

3. 研究の方法

バンクーバーのDTES地区及び周辺地域における居住環境改善を求める社会運動における複数エスニック集団の連携に焦点を絞り、(1) 適正価格の住宅供給や低所得層の生活環境改善を中心とする居住環境改善に関する住民・地域団体による取り組み、社会運動の展開、(2) そうした取り組み、社会運動に関連した複数の民族、エスニック集団の連携の実態とその背景（とりわけ排斥等の歴史）に着目して、団体や関係者へのインタビュー、参加観察によって質的データを取得し、分析を行った。

4. 研究成果

2018年度は7ヶ月間の現地調査を実施し、DTESおよび周辺での日系、中国系、先住民、黒人グループの諸活動やネットワーク形成、及び従来の地域活動団体の活動展開について参与観察調査を実施し、ジェントリフィケーション反対運動、住宅不足問題への改善要求運動を軸として、横断的な協力関係が構築されていることを確認した。一方で、反対運動の持続には一定の資源が必要であり、グラスルーツの小規模団体が中心であるDTESやその周辺では必ずしも全体を包括的に取りまとめる組織が存在しないことが課題となっていることを明らかにした。また、低所得

地域が縮小することによって土地への権利をめぐるエスニックマイノリティ間の対立も生じていることを確認した。2019年度は上記に係る状況の経過についてデータ収集を実施した。

2022年度、2023年度は、2020年からのコロナ禍での地域内での支援活動の展開に関するデータ収集、分析を行った。コロナ禍の緊急時には立場を超えた協力が見られたが、一方で助成金が縮小する中で、限られた機会を競い合う関係も生じていることを明らかにした。

最終年度は2023年9月に現地調査を行い、補足的なデータ収集を実施した。この調査では(1) DTESでのジェントリフィケーションをめぐる状況の変化（特にこれまで一定の歯止めの役割を果たしてきた条例の見直しに関する議論）、(2) グラスルーツの地域団体の活動・財政状況（コロナ禍に特別に給付された助成金等が縮小される一方でニーズは減らず、団体の活動に負荷をかけている）、(3) ホームレスに対する排除・規制の強化の進行などについて確認した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 山本薫子	4. 巻 31
2. 論文標題 都市における共同性の構築・再構築をめぐる可能性と課題	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 地域社会学会年報	6. 最初と最後の頁 15, 29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計9件（うち招待講演 2件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 山本薫子
2. 発表標題 福祉化する「寄せ場」における「地域」枠組みの強化とホームレス排除 - 横浜・寿町を事例に -
3. 学会等名 2022年度地域社会学会大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山本薫子
2. 発表標題 地域に関わる社会調査が持つ現代的課題
3. 学会等名 第94回日本社会学会大会 倫理委員会企画テーマセッション（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山本薫子
2. 発表標題 カナダ・バンクーバーの低所得地域における住宅・居住環境をめぐる課題と社会運動の展開
3. 学会等名 2020年度地域社会学会大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山本薫子
2. 発表標題 カナダ低所得地域における薬物依存問題と支援活動の展開
3. 学会等名 横浜精神科福祉を良くする会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山本薫子
2. 発表標題 大都市低所得地域における民族・人種的マイノリティによる対抗と都市空間に対する権利主張
3. 学会等名 日本都市社会学会第37回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kahoruko Yamamoto
2. 発表標題 Social changes and struggles of low-income communities: From case studies in Japan and Vancouver
3. 学会等名 Visiting Scholars Mini-Conference Round Table, Department of Sociology, University of British Columbia
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山本薫子
2. 発表標題 都市低所得地域における コロナ禍の緊急生活支援と地域活動再編 カナダ・バンクーバーを事例に
3. 学会等名 地域社会学会第48回大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 山本薫子
2. 発表標題 都市低所得地域における福祉化と路上生活者排除の進行 カナダ・バンクーバーを事例に
3. 学会等名 地域社会学会第49回大会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 山本薫子
2. 発表標題 カナダの大都市低所得地域における社会課題とその取り組みーホームレスの生活支援、ジェントリフィケーション、薬物問題ー
3. 学会等名 ことぶきゆめ会議（横浜市中区寿地区地域福祉保健計画策定会議）
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 Toshio Mizuuchi, Geerhardt Kornatowski, Taku Fukumoto and Kahoruko Yamamoto	4. 発行年 2023年
2. 出版社 Springer Verlag	5. 総ページ数 347
3. 書名 Diversity of Urban Inclusivity: Perspectives Beyond Gentrification in Advanced City-Regions	

1. 著者名 長谷川公一、山本薫子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 有斐閣	5. 総ページ数 376
3. 書名 社会運動の現在：市民社会の声	

1. 著者名 文貞實、山口恵子、小山弘美、山本薫子	4. 発行年 2023年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 266
3. 書名 社会にひらく 社会調査入門	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------